



↑これから育てるカブトガニの幼生を、高校生の指導を受けながら顕微鏡で観察しました

12月16日、牧島小学校でカブトガニの幼生の引き渡しが行われ、伊万里高校の生徒が、牧島小学校5年生の児童にカブトガニの幼生約150匹を引き渡しました。

カブトガニの幼生は、昨年の夏に伊万里高校の理化・生物部の生徒が、多々良海岸で採取した卵をふ化させたもので、大きさは約7ミリです。

今後、児童たちは、幼生に餌を与えるなど世話をしながら、大きさが約1センチに成長するまで飼育に取り組みます。育てた幼生は、夏に、カブトガニを守る会などと一緒に、伊万里湾に放流する予定です。

## カブトガニ幼生を飼育協力校へ



↑教わりながら初めて奏でたヴァイオリンの音に、即興のピアノが加わり、会場は盛り上がりしました

12月18日、波多津小学校で芸術鑑賞会が開催され、ヴァイオリンとピアノのコンサートが行われました。

これは、子どもたちの生涯学習への第一歩となる『はじめてのまなび』を応援しようとして、県が団体を委託・派遣する『はじめてのまなび応援事業』を活用して行われたものです。

この日は、井石弾さんがヴァイオリンを、北島千夏子さんがピアノの演奏を披露したほか、児童が、ヴァイオリンの演奏を体験するなど、普段はなかなかできない貴重な体験をし、児童たちの目は輝いていました。

## 波多津小学校で芸術鑑賞会



↑グランドピアノの前で、母校の生徒たちに囲まれ、感謝状を手にする宮崎さん（前列中央）

12月23日、山代中学校でグランドピアノの受納式が行われました。

グランドピアノは、同校出身の宮崎直さんと松尾悦義さんから寄贈されたもので、生徒たちが美しい音色に触れ、心を落ち着かせながら勉学に励んでほしいという思いが込められています。

受納式では、代表で出席した、宮崎さんに感謝状が贈られ、生徒や教員が、ピアノの演奏と合唱を披露しました。

寄贈されたグランドピアノは、体育館のステージに設置され、これからさまざまな場面で活用されていきます。

## 山代中学校にグランドピアノ寄贈

# 郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22・1262

## 伊万里市に弥生時代の遺跡が

少ないのはなぜ？

弥生時代の前の縄文時代

は、狩猟や採取を中心とした生活が営まれていましたが、弥生時代になると大陸から稲作が伝わり、定住して水田をつくるなど、農作業を集団で行うようになりました。それ以降、日本の生産基盤は、稲作が中心となります。

図1は、市内で確認されている遺跡数の割合を、時代ごとに区分したグラフです。合併前の唐津市(図2)と比べると、伊万里市は、縄文時代の遺跡数が多い一方、弥生時代から古墳時代までの遺跡数が、極端に少ないことが分かります。

なぜ、このような違いがあるのでしょうか。

るのでしょうか。

その理由の一つとして、地形が関係していると考えられます。

伊万里湾周辺で、現在、水田となっている場所の多くは、江戸時代以降に干拓された土地です。ももとの地形は、山から一気に海へと落ち込む地形で、平らな土地が少なく、有田川は、大雨の際に氾濫する『あばれ川』であったため、周辺は、稲作に適した場所ではなかったと考えられます。

このように、稲作を生産する基盤に適した土地が少なかったことから、伊万里市は、弥生時代から古墳時代までの遺跡数が少ないと考えられています。

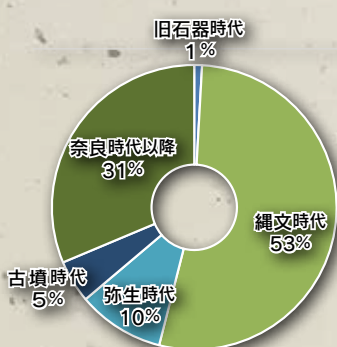


図1 伊万里市 遺跡数 割合

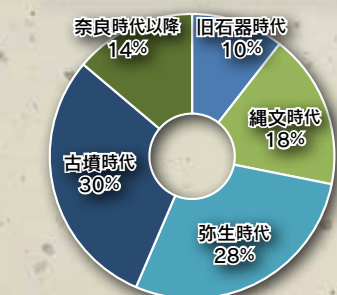


図2 唐津市（合併前）遺跡数 割合